

## 第2回「主婦の社会的支援ネットワーク特性と精神的健康調査」の基礎分析

野邊政雄・田中宏二

### 目 次

1. 本報告書の目的
2. 調査対象と調査方法
3. 単純集計表
4. 主要な知見

#### 1. 本報告書の目的

筆者らは、平成5年10月に岡山市で社会的支援ネットワークと精神的健康に関する面接調査を行った<sup>1)</sup>。その調査対象は、60歳未満の既婚女性であった。その調査の分析枠組みは、住民が取り結ぶ社会的支援ネットワークがその人の精神的健康に及ぼす影響を解明することであった。しかし、一時点において、回答者の社会的支援ネットワークとその人の精神的健康を調査したので、両変数間での因果関係を確定できなかった。つまり、この調査方法では、社会的支援ネットワークと精神的健康の間に関連があるとき、回答者の社会的支援ネットワークがその人の精神的健康に影響を及ぼしているのか、回答者の精神的健康が社会的支援ネットワークに影響を及ぼしているのかを確認できないのである。

この調査方法上の問題を解決して、回答者の社会的支援ネットワークがその人の精神的健康に影響を及ぼすかどうかを検証するために、平成5年10月の調査（以後、この調査を「第1回調査」と呼ぶ）の回答者を対象にして平成6年11月にパネル調査を実施し（以後、この調査を「第2回調査」と呼ぶ）、約1年後のその人の精神的健康を調査した。両調査の結果をまとめることで、回答者の社会的支援ネットワークがその人の精神的健康に及ぼす影響を検証できるのである。つまり、調査時点が約1年ずれているので、第1回調査における回答者の社会的支援ネットワークと第2回調査におけるその人の精神的健康との間に関連があるとすれば、前者が原因で後者が結果であると考えることができる。

これに加えて、第2回調査で透明や半透明のゴミ袋を使用する意思決定の過程とその使用の実態を調査することにした。平成6年10月1日より岡山市で透明や半透明のゴミ袋を使うことになった。透明や半透明のゴミ袋を使うことは、イノベーションの採用とみなすことができる。そして、社会関係を取り結ぶ人からのパーソナルコミュニケーションは、その人のイノベーションの評価に大きな影響を及ぼすと言われているから（Katz and Lazarsfeld 1955, Rogers 1971）、社会関係（特に、近隣関係）を多く取り結ぶ住民ほど透明や半透明のゴミ袋を採用しやすいという仮説を提起できる。ところで、第1回調査で社会的支援ネットワークを調査していたので、第2回調査で同一の回答者に透明や半透明のゴミ袋を使用しているかを調査すれば、住民の社会関係がそうしたゴミ袋の使用に影響を及ぼしているかどうかを検証できる。

(1)住民の社会的支援ネットワークがその人の精神的健康に影響を及ぼしているかどうか、

(2)住民の社会関係がその人の透明や半透明のゴミ袋の採用に影響を及ぼしているかどうかの2点を検証するために、筆者らは第1回調査の回答者を対象にして平成6年11月に第2回調査を実施した。本稿では、その調査の概要を説明し、単純集計表を提示する。最後に、この単純集計表を検討することから得られた知見を解説する。

## 2. 調査対象と調査方法

第1回調査では、調査対象者を確率比例抽出法によって選挙人名簿から標本を抽出した。そして、その調査で398人に面接調査を実施できた。第2回調査では、この398人を対象に郵送調査を実施した。返信用切手を貼付した返信用封筒を同封した上で、平成6年11月8日に調査票を対象者に郵送し、11月20日までに記入した調査票を返送するように依頼した。その日までに返送のない人に、11月21日に督促状を送付した。以上の手続きの結果、返送のあった有効票数は319であり、無効票数は79であった。無効票の内訳は、転居9、病気1、返送なし69であった。有効票のうち7票は、転居した住所から返送されてきた。結局、第1回調査で調査が可能であった398人のうち、16人は転居していた。記入が不完全な調査票も若干あったが、電話で不明な点をたじた。回収された有効票数(319)を調査対象者数(398)で割った割合を回収率とすると、回収率は80.2%であった。

## 3. 単純集計表

以下、設問に従って単純集計表を提示してゆくが、選択肢ごとに表示された数字は、それぞれを選択した人数であり、括弧内の数字は全回答者319を母数としたパーセンテージである。問7のような選択質問についてのパーセンテージに、注意が必要である。問6で透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことに「賛成」ないし「やむをえない」と考える回答者のみが問7に回答しているけれど、問7の各選択肢に示されたパーセンテージは問6で透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことに「賛成」ないし「やむをえない」と考える人数を母数とした割合でなく、先述の319人を母数としたパーセンテージである。ところで、問5のような複数回答が認められた質問では、選択肢のパーセンテージの合計が100にならないことは言うまでもない。

**問1** 数週間前から現在までの間の健康状態についてお尋ねします。次の質問に対して、最も適当と思われるものを選択肢の中からお選びください。

	全 なかった	く あま り な か つ た	あ ま り あ つ た	た び た び あ つ た	合 計
(1) 気分や健康状態は良いと感じることが*	8(2.5%)	63(19.7%)	178(55.8%)	70(21.9%)	319(100.0%)
(2) 疲労回復剤(ドリンク・ビタミン剤)を 飲みたいと思ったことは	169(53.0%)	59(18.5%)	74(23.2%)	17(5.3%)	319(100.0%)
(3) 元気なく疲れを感じたことは	24(7.5%)	112(35.1%)	151(47.3%)	32(10.0%)	319(100.0%)
(4) 病気だと感じたことは	139(43.6%)	96(30.1%)	74(23.2%)	10(3.1%)	319(100.0%)
(5) 頭痛がしたことは	104(32.6%)	90(28.2%)	106(33.2%)	19(6.0%)	319(100.0%)
(6) 頭が重いように感じたことは	97(30.4%)	112(35.1%)	94(29.5%)	16(5.0%)	319(100.0%)
(7) 身体がほてったり寒気がしたことは	146(45.8%)	90(28.2%)	77(24.1%)	6(1.9%)	319(100.0%)
(8) 心配ごとがあつて、よく眠れないよ うなことは	124(38.9%)	123(38.6%)	58(18.2%)	14(4.4%)	319(100.0%)
(9) 夜中に目を覚ますことは	82(25.7%)	112(35.1%)	95(29.8%)	30(9.4%)	319(100.0%)
(10) いつもストレスを感じたことが	41(12.9%)	161(50.5%)	94(29.5%)	23(7.2%)	319(100.0%)

第2回「主婦の社会的支援ネットワーク特性と精神的健康調査」の基礎分析

(11) イライラして、おこりっぽくなることは	36(11.3%)	149(46.7%)	108(33.9%)	26( 8.2%)	319(100.0%)
(12) たいした理由がないのに、何か恐くなったり、取り乱すことは	238(74.6%)	69(21.6%)	7( 2.2%)	5( 1.6%)	319(100.0%)
(13) いつもよりいろいろなことを重荷と感じたことは	113(35.4%)	134(42.0%)	66(20.7%)	6( 1.9%)	319(100.0%)
(14) 不安を感じ緊張したことは	130(40.8%)	127(39.8%)	54(16.9%)	8( 2.5%)	319(100.0%)
(15) いつもより忙しく活動的な生活を送ることが*	9( 2.8%)	97(30.4%)	152(47.6%)	61(19.1%)	319(100.0%)
(16) いつもより何かするのに余計に時間がかかることが	69(21.6%)	168(52.7%)	75(23.5%)	7( 2.2%)	319(100.0%)
(17) いつもよりすべてがうまくいっていると感じることが*	18( 5.6%)	169(53.0%)	115(36.1%)	17( 5.3%)	319(100.0%)
(18) 毎日している家事や仕事が順調に運ぶことが*	2( 0.6%)	85(26.6%)	184(57.7%)	48(15.0%)	319(100.0%)
(19) いつもより自分のしていることに生きがいを感じるものが*	13( 4.1%)	146(45.8%)	131(41.1%)	29( 9.1%)	319(100.0%)
(20) いつもよりスムーズに(容易に)物ごとを決めることが*	10( 3.1%)	150(47.0%)	146(45.8%)	13( 4.1%)	319(100.0%)
(21) いつもより日常生活を楽しく送ることが*	3( 0.9%)	117(36.7%)	158(49.5%)	41(12.9%)	319(100.0%)
(22) 自分は役に立たない人間だと考えたことは	155(48.6%)	117(36.7%)	40(12.5%)	7( 2.2%)	319(100.0%)
(23) 人生に全く望みを失ったと感じたことは	239(74.9%)	60(18.8%)	15( 4.7%)	5( 1.6%)	319(100.0%)
(24) 生きていることに意味がないと感じたことは	253(79.3%)	47(14.7%)	17( 5.3%)	2( 0.6%)	319(100.0%)
(25) この世から消えてしまいたいと考えたことは	266(83.4%)	36(11.3%)	14( 4.4%)	3( 0.9%)	319(100.0%)
(26) ノイローゼ気味で何もすることができないと考えたことは	279(87.5%)	28( 8.8%)	11( 3.4%)	1( 0.3%)	319(100.0%)
(27) 死んだ方がましだと考えたことは	283(88.7%)	22( 6.9%)	11( 3.4%)	3( 0.9%)	319(100.0%)
(28) 自殺しようと考えたことが	299(93.7%)	13( 4.1%)	4( 1.3%)	3( 0.9%)	319(100.0%)

\*：逆転項目を示す。

(1)～(7)の質問項目は身体症状尺度、(8)～(14)の質問項目は不安と不眠尺度、(15)～(21)の質問項目は社会的活動障害尺度、(22)～(28)の質問項目はうつ状態尺度を構成する。更に、(1)～(28)すべての質問項目はGHQ精神健康度尺度を構成する。「全くなかった」を0、「あまりなかった」を1、「あった」を2、「たびたびあった」を3とした。ただし、逆転項目にはその反対の得点を与えた。そして、それぞれの尺度ごとに質問項目を加算した。身体症状尺度の平均は7.33、標準偏差は3.91、不安と不眠尺度の平均は6.82、標準偏差は3.71、社会的活動障害尺度の平均は9.15、標準偏差は3.04、うつ状態尺度の平均は1.94、標準偏差は3.14、精神健康度尺度の平均は25.24、標準偏差は9.95である。

**問 2** あなたは今の生活についてどれくらい張り合いを感じていますか。次の質問に対して最も適当と思われるものを選択肢の中からお選びください。

	まったく ない	あまり ない	どちらとも いえない	かなり ある	たびたび ある	合計
(1) ふだんの生活でも、心がと きめくような楽しいことが	8( 2.5%)	85(26.6%)	113(35.4%)	82(25.7%)	31( 9.7%)	319(100.0%)
(2) 今の生活では自分の力を 十分発揮できていないと思 うことが*	26( 8.2%)	112(35.1%)	105(32.9%)	54(16.9%)	22( 6.9%)	319(100.0%)
(3) 毎日がただ何となく過ぎて 行くような感じが*	42(13.2%)	99(31.0%)	68(21.3%)	86(27.0%)	24( 7.5%)	319(100.0%)
(4) もっと別の生き方をしてみ たいと思うことが*	47(14.7%)	102(32.0%)	85(26.6%)	55(17.2%)	30( 9.4%)	319(100.0%)
(5) ときどき、毎日の生活にむ なしさを感じるものが*	67(21.0%)	124(38.9%)	67(21.0%)	35(11.0%)	26( 8.2%)	319(100.0%)

\*：逆転項目を示す。

これらの質問項目は充実感尺度を構成する。(1)の質問項目の選択肢のうち、「まったくない」を0、「あまりない」を1、「どちらともいえない」を2、「かなりある」を3、「たびたびある」を4とした。ただし、(2)～(5)は逆転項目であり、その反対の得点を与えた。そして、(1)～(5)すべての質問項目を加算すると、平均11.29、標準偏差4.08となる。

**問 3** あなたは毎日の生活に、100点満点でいえば、何点ぐらいの生活満足感をお持ちですか。

平均点は72.64、標準偏差は15.13である。

**問 4** 岡山市では、今年の10月1日から透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことになりました。このことをあなたはご存じでしたか。

(1) 知っていた。	317( 99.4%)
(2) 知らなかった。	2( 0.6%)
合計	319(100.0%)

**問 5** (知っている方にのみお伺いします) あなたは、透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことになったことをどのように知りましたか。あてはまるものを、いくつでも選んで下さい。

(1) テレビ・ラジオで知った	200( 63.1%)
(2) 新聞(新聞記事や新聞広告)で知った。	181( 57.1%)
(3) 家庭に配布された市役所のお知らせ(「市民のひろば岡山」)やチラシで知った。	292( 92.1%)
(4) 町に張られたポスターを見て知った。	24( 7.6%)
(5) 商工会や商工会議所の集まりで、市役所の人が行った説明で知った。	35( 11.0%)
(6) 近所の人や町内会(自治会・部落会)の人の話で知った。	140( 44.2%)
(7) その他の人の話で知った。	64( 20.2%)
(8) その他	8( 2.5%)

問6 燃えるゴミと燃えないゴミにゴミを分けて出さない人がいるので、透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことになったわけですが、このゴミの出し方の変更にあなたは賛成ですか。

(1) 賛成である。	147( 46.1%)
(2) 賛成はできないが、やむをえないと思う。	159( 49.8%)
(3) 反対である。	9( 2.8%)
(4) その他の意見	4( 1.3%)
合 計	319(100.0%)

問7 (ゴミの出し方の変更に賛成あるいはやむをえないと思われる方へお伺いします) 透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことに賛成あるいはやむをえないと思われるようになったのは、なぜですか。最も大きい理由を1つ選んで下さい。

(1) ゴミ問題に関するテレビ・ラジオの番組を見たり・聞いたりして。	70( 21.9%)
(2) 新聞(ゴミ問題に関する新聞記事や新聞広告)を読んで。	4( 1.3%)
(3) 家庭に配布された市役所のお知らせ(「市民のひろば岡山」)やチラシを読んで。	36( 11.3%)
(4) 町に張られたゴミ問題に関するポスターを見て。	0( 0 %)
(5) 商工会や商工会議所の集まりで、市役所の人が行った説明を聞いて。	3( 0.9%)
(6) 近所の人や町内会(自治会・部落会)の人と話し合った結果。	3( 0.9%)
(7) その他の人と話し合った結果。	2( 0.6%)
(8) ゴミの出し方のマナーがひどい思っていたので。	123( 38.6%)
(9) 市民が出すゴミの量を減らさなければいけないと思っていたので。	65( 20.4%)
(10) 非該当(ゴミの出し方の変更に反対、あるいはその他の意見を持っている)	13( 4.1%)
合 計	319(100.0%)

問8 では、あなたは透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出していますか。

(1) 出している。	230( 72.1%)
(2) 出していない。	89( 27.9%)
合 計	319(100.0%)

問9 (透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出している方へ) あなたが、透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことにした、最も大きな理由は何ですか。1つ選んで下さい。

(1) 透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことに賛成、あるいはやむをえないと思うから。	171( 53.6%)
(2) スーパーなどのお店で、透明や半透明の買物袋をもらうようになったから。	36( 11.3%)
(3) お店で透明や半透明のゴミ袋が売られるようになったから。	10( 3.1%)
(4) 近所の人が多くが、透明や半透明のゴミ袋で出しているから。	3( 0.9%)
(5) お金を払って、町内会から透明や半透明のゴミ袋の配布を受けているから。	0( 0 %)
(6) その他	10( 3.1%)
(7) 非該当(透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出していない)	89( 27.9%)
合 計	319(100.0%)

問10 (透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出していない方へ) あなたが、透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出さない、最も大きな理由は何ですか。1つ選んで下さい。

(1) 透明や半透明のゴミ袋に入へてゴミを出すことに反対だから。	0( 0 %)
----------------------------------	---------

(2) スーパーなどで色のついた買物袋をくれるから。	2( 0.6%)
(3) 色のついたゴミ袋や買物袋がまだ家にたくさん残っているから。	51( 16.0%)
(4) 近くのお店では、透明や半透明のゴミ袋が売られていないから。	0( 0 %)
(5) 今年の10月1日から半年間は猶予(ゆうよ)期間になっていて、色のついた袋に入れたゴミももっていってくれるから。	31( 9.7%)
(6) 近所の人のが多くが、透明や半透明の袋でゴミを出していないから。	0( 0 %)
(7) 透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出すことになったことを知らなかったから。	0( 0 %)
(8) その他	5( 1.6%)
(9) 非該当(透明や半透明のゴミ袋に入れてゴミを出している)	230( 72.1%)
合 計	319(100.0%)

## 問11

あなたが親しいと思っている人を、親しい順番に6人考えて下さい。同居家族以外の方なら、ご両親でもお子さまでも、かまいません。(親しく、つき合っておられる方が、6人おられませんでしたら、5人以下でもかまいません。)あげていただいた方について、次の5つのことをお尋ねします。まず、①の欄にその方のお名前を記入して下さい。差しつかえがありましたら、あだ名、ニックネーム、イニシャルなどでもけっこうです。②の欄でその方の性別を選んで下さい。③の欄でその方の間柄を選んで下さい。④の欄では、その方がどこにお住まいかをお教え下さい。⑤の欄では、あなたがあげられた方々が、お互いに知り合いであるかどうかをお教えください。下の表の太枠の中に、答えをご記入ください。

回答者はこの質問に、合計で1720人の名前を挙げた。つまり、1人当たり平均5.392人を挙げた。これを相手の性別、間柄別、居住地別に集計すると次のようになる。単位は人であり、括弧内の数字は標準偏差である。

## [性別]

男 性	0.740(0.920)	女 性	4.652(1.419)	合 計	5.392(1.284)
-----	--------------	-----	--------------	-----	--------------

## [間柄]

別居家族・親族	2.326(1.725)
職場の同僚・上司	0.292(0.722)
近所の人	0.592(1.014)
友 人	2.182(1.733)
合 計	5.392(1.284)

## [居住地]

歩いて15分以内	1.339(1.468)
岡山市内	2.304(1.684)
岡山県内	0.724(1.127)
岡山県外	1.025(1.479)
合 計	5.392(1.284)

## [密度]

親しい人として2人以上の人を挙げた回答者307人について、挙げられた親しい人における平均密度を求めると、51.3%(標準偏差27.1)であった。ところで、親族どうしが知り合いであるのが普通なので、親族どうしの社会関係を除外して平均密度を求めると、33.6%(標準偏差28.0)であった(この値については、そうした社会関係のある291人の回答者について算出した)。

## 4. 主要な知見

以上の単純集計表から読み取ることができる、主要な知見を3点挙げておきたい。

第1に、平成5年10月に実施した第1回調査で得られた各種得点を、第2回調査の対応する得点と比較したい。両調査において、精神健康度(問1)、充実感(問2)、生活満足感(問3)を測定した。表1は、第1回調査の結果と今回実施した第2回調査のそれとを対比的に示している。同表から、GHQ 精神的健康では、下位指標の社会的活動障害尺度を除き、すべての指標で第2回調査の方が有意に高く(つまり不健康に)なっている。生活充実感と生活満足感では両時点で差は見られなかった。

表1 精神的健康諸指標の得点の比較

	第1回調査	第2回調査	t検定 (両側検定)
GHQ 精神的健康尺度	23.44( 9.37)	25.24( 9.95)	**
身体症状尺度	6.59( 3.88)	7.33( 3.91)	**
不安と不眠尺度	5.49( 4.13)	6.82( 3.71)	**
社会的活動障害尺度	9.84( 2.97)	9.15( 3.04)	**
うつ状態尺度	1.52( 2.54)	1.94( 3.14)	**
生活充実感	11.61( 3.70)	11.29( 4.08)	
生活満足感	73.72(13.62)	72.64(15.13)	

(注) 括弧内の数字は標準偏差。 \*\* $p < .01$

第2に、透明や半透明のゴミ袋の利用についての調査結果を検討する。透明や半透明のゴミ袋の利用はイノベーションの採用と見なしうる。イノベーションの普及理論によれば、採用過程における認知段階ではマスコミュニケーションが大きな役割を果たすのに対し、評価段階ではパーソナルコミュニケーションが強力に働くといわれている(Katz and Lazarsfeld 1955, Rogers 1971)。調査結果によれば、岡山市で平均6年10月から透明や半透明のゴミ袋を使わなければならなくなったことは、ほぼ全員の回答者が知っていた(問4)。それを知るようになったのは、市役所のお知らせやチラシ(92.1%)、テレビ・ラジオ(63.1%)、新聞(57.1%)といったマスコミュニケーションによるが多かった(問5)。この結果は、認知段階でマスコミュニケーションが大きな役割を果たすという仮説に合致する。次に、ゴミの出し方の変更に賛成あるいはやむをえないと考えるのは、95.9%の回答者であった(問6)。そして、このように考えるようになったのは、「ゴミの出し方のマナーがひどいと思ったから」(38.6%)とか、「市民が出すゴミの量を減らさなければと思っていたので」(20.4%)とか、テレビ・ラジオといったマスコミュニケーションの視聴から(21.9%)が主であった(問7)。つまり、日々の体験からとかマスコミュニケーションの視聴によって、そうした評価が形成されていた。この結果は、評価段階ではパーソナルコミュニケーションが強力に働くという仮説と矛盾する。しかし、回答者本人が意識していなくとも、パーソナルコミュニケーションがその人の行う評価に影響を及ぼしていたこともありうるから、今後、ゴミ袋の利用に関するデータを第1回調査で得た回答者の社会的ネットワークに関するデータとをまとめて分析し、パーソナルコミュニケーションがゴミ袋の利用に影響を及ぼしているかどうかを検証したい。

前述のように、回答者の95.9%は、ゴミの出し方の変更に賛成あるいはやむをえないと考えていた。実際の行動では、72.1%の回答者が透明や半透明のゴミ袋を調査時点で既に利用していた(問8)。それをまだ利用していない回答者でも、自らの信念からそれを利用していないのではなく、色のついたゴミ袋がまだ家に残っているからとか、平成7年3月までは猶予期間であるからといった消極的理由からであった(問10)。そこで、猶予期間が終了する平成7年4月には、大部分の既婚女性は透明や半透明のゴミ袋を利用するように

なると予想できる。

第3に、個人が取り結ぶ社会的ネットワークの密度について述べたい。ネットワークの密度とは、あるネットワークにおける潜在的に可能な社会関係数に対する現実の社会関係数の割合である。例えば、ある回答者が親しい人として4人挙げたとすると、この4人の間に最大6つの社会関係が取り結ばれうる。現実はこの4人の間で5つの社会関係が取り結ばれるとすると、5を6で割った83.3%がネットワークの密度となる。

第1回調査では、複雑な質問を用いて社会的ネットワークを調査したから、その密度までも尋ねることをあきらめざるをえなかった。第2回調査では、回答者が親しいと思っている人を6人まで挙げてもらうという単純な質問を用いて社会的ネットワークを調査したから、その密度をも尋ねることができた。つまり、回答者が挙げた親しい人が、お互いに知り合いかどうかを質問できた。

さて、親しい人として2人以上の人を挙げた回答者307人について、挙げられた親しい人の間における平均密度を求めると、51.3%であった。つまり、回答者が親しい人として挙げた人たちは、約半数と互いに知り合いなのである。しかし、親族どうしはたいてい知り合いなので、親族どうしの組み合わせを除外すると、平均密度は33.6%にすぎなかった。つまり、回答者が親しい人として挙げた人たちは、約3分の1と互いに知り合いにすぎない(問11)。

#### 注

- 1) この調査の詳細については、野邊・田中(1994)を参照。

#### 引用文献

- Katz, Elihu, and Paul F. Lazarsfeld 1955 *Personal Influence: The Part Played by People in the Flow of Mass Communication*. The Free Press. (竹内郁郎訳『パーソナル・インフルエンス—オピニオン・リーダーと人びとの意思決定—』1965 培風館)
- 野邊政雄・田中宏二 1994 「主婦の社会的支援ネットワーク特性と精神的健康調査の基礎分析(その1)(その2)」『岡山大学教育学部研究集録』第96号, 133—152; 第97号, 133—142.
- Rogers, Everett M. with F. Floyd Shoemaker 1971 *Communication of Innovations: A Cross-Cultural Approach*, Second Edition. The Free Press. (宇野善康監訳『イノベーション普及学入門—コミュニケーション、社会心理学、文化人類学、教育学からの学際的・文化横断的アプローチ—』1981 産業能率大学出版部)

#### 謝 辞

調査票作成のために実施したプリ・テストでは、津島東の北公民館を利用する女性の方々に有益な助言をいただき、調査票の質問を改善することができた。また、岡山市の319名にのぼる女性が貴重な時間を割いてこの調査に回答をよこしてくれた。これらのお世話になった方々に感謝します。

(平成7年2月20日受理)